

俳句サロン 令和六年

「秋」 九月～十月



夏の鯉瀬戸川清くああ野麦
「河内山」余韻のなかへ秋の風

スポーツの日親子のゴルフ一万歩
朝寒や気合を四肢に入れ起床

晴代 雅俊 晴代 雅俊 晴代 雅俊

「冬」 十一月～十二月



新米を神と分け合ふ能登の産
鉢植の濃き紅葉残る秋
波の華能登の海岸冬風
せくものが動き動かす十二月

晴代 雅俊 晴代 雅俊



2025年はへび年。

古来より豊穣や金運を司る神様として祀られることもあり、
神聖な生き物として認識されてきました。たくましい生命力
があり、脱皮をするたびに表面の傷が治癒していくことから、医療、治療、再生のシンボルともされています。